

10 本県に被害をもたらした地震

| 発生年月日 | 地震の名称 | 被災地域 | 地震の記録 | 被害状況 |
|------------------------|--------------------------|--|---|---|
| 1916. 2. 22 (大正5) | 浅間山北麓 (名称なし) | 嬬恋村 | 18時12分、浅間山北麓に破壊的な地震あり | 山くずれ、県道通行止め、家屋全壊7、半壊3、一部破損29 |
| 1923. 9. 1 (大正12) | 関東大地震 (関東大震災) | 関東各都県 静岡、山梨 | 11時58分、小田原付近で発生。 倒壊家屋多数あり マグニチュード7.9 前橋震度4 | 家屋倒壊多数。死者10万人 県内の被害 負傷9、家屋倒壊49 半壊8、一部破損多数 鉄道・通信等被害大 |
| 1931. 9. 21 (昭和6) | 西埼玉地震 | 県内全域 (南半に大) | 11時20分、埼玉県仙元山付近で発生。 高崎・渋川・五料震度6、 前橋震度5 | 死者5、傷者30、家屋倒壊166、半壊1,769、山くずれ・橋梁破損55、煙突倒壊155 |
| 1964. 6. 16 (昭和39) | 新潟地震 | 利根郡 吾妻郡 | 13時02分、新潟県沖で発生。 マグニチュード7.5 県内各地震度4 | 高山村で被害多数。 負傷者1 家屋破損、道路・堤防損壊あり |
| 1993. 5. 21 (平成5) | 茨城県南西部を震源とする地震 (名称なし) | 館林市 明和村 板倉町 | 11時36分、茨城県南西部で発生。 マグニチュード5.2 前橋震度2 | 館林市、明和村、板倉町で住家の一部破損37 公共建物の被害3 |
| 1995. 3. 23 (平成7) | 茨城県南西部を震源とする地震 (名称なし) | 板倉町 | 7時24分、茨城県南西部で発生。 マグニチュード4.9 前橋震度1 | 板倉町で住家の一部破損2 |
| 1996. 12. 21 (平成8) | 茨城県南部を震源とする地震 | 館林・桐生・ 太田・前橋・ 高崎市 板倉・千代田 笠懸・大間々 町・明和村 | 10時29分、茨城県南部で発生。 マグニチュード5.5 板倉震度5弱 沼田・桐生・片品震度4 前橋・富岡・吾妻等震度3 | 住家の一部破損46 このほか停電、鉄道運行一時見合せ、関越自動車道速度規制等あり |
| 2004. 10. 23 (平成16) | 新潟県中越地震 | 北橋・赤城・ 沼田・白沢・ 桐生・大間々 ・太田・前橋 ほか | 17時56分、新潟県中越地方で発生。 マグニチュード6.8 高崎・北橋・片品・白沢・ 昭和・沼田震度5弱 | 負傷者6 住家の一部損壊1,055 非住家の一部損壊35 |

| | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------|--|--|
| <p>2011. 3. 11 (平成23)</p> | <p>東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)</p> | <p>東北地方を中心に全国</p> | <p>14時46分 三陸沖を震源として発生 マグニチュード9.0 (最大震度 7 宮城県) 県内最大震度6弱 桐生市元宿町 震度5強 沼田、前橋、高崎、桐生、渋川、明和、千代田、大泉、邑楽、太田 (5弱以下省略)</p> <p>3.12 03時59分 長野県北部を震源として発生 マグニチュード6.7 (最大震度 6強 長野県) 県内最大震度 5強 中之条町 (5弱以下省略)</p> | <p>(県内) 死者1人、負傷者41人、住家の半壊7棟 住家の一部破損17,675棟 (平成24年9月11日(火)17時15分現在)</p> |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------|--|--|

10-2 東日本大震災に係る対応の概要

東北地方太平洋沖地震に伴う災害対策本部の設置・運営

- (1) 平成23年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震により、県内では最大震度6弱（桐生市元宿町）を観測したことから、県地域防災計画に基づき県災害対策本部（本部長：知事）を設置し、県内被害状況の収集、応急復旧対応に当たった。（その後、平成23年3月12日17:25に災害警戒本部（本部長：危機管理監）に移行した。）

県対策本部会議開催等の状況

| | | |
|------------|-------|------------------------|
| 平成23年3月11日 | 14:55 | 県災害対策部設置 |
| | 15:00 | 第1回災害対策本部会議 |
| | 17:00 | 第2回災害対策本部会議 |
| | 18:30 | 第3回災害対策本部会議 |
| 3月12日 | 16:00 | 第4回災害対策本部会議 |
| | 17:25 | 県災害警戒本部（本部長：危機管理監）へ移行。 |
| 3月14日 | 10:00 | 第1回災害警戒本部会議 |
| 3月15日 | 14:00 | 第2回災害警戒本部会議 |
| 3月15日 | 14:00 | 第2回災害警戒本部会議 |
| ~~~~~ | | |
| 平成24年3月12日 | 17:15 | 災害警戒本部廃止 |

なお、平成23年3月14日10:00には、群馬県東北地方太平洋沖地震支援本部（本部長：知事、事務局：総務部総務課）が設置された。

- (2) 1年が経過し、震度4以上の余震について、県外では依然として続いているものの県内では平成23年5月以降10ヶ月以上継続して観測されていないことから、平成24年3月12日17:15に、災害警戒本部を廃止した。

1.1 浅間山噴火の歴史（昭和～平成）

| 年 月 日 | 被害地域 | 噴 火 の 記 録 | 被 害 状 況 |
|---|-------|---|--|
| 昭和3年(1928) 2月23日 | 浅間山周辺 | 16時45分大音響と共に爆発し、噴煙は東北東に流れ二度上附近では4～5分間にわたり大なるものは径6、7寸の降石あり(坪当り4～5個)灰砂礫は坪当り4升あった。 | 長野原町二度上附近、噴石による家屋の被害多く負傷者1名を出す。 (浅間山爆発史集) |
| 昭和4年(1929) 9月18日 | " | 1時 9分大音響と共に爆発し噴煙は南東に流れる。噴出溶岩は方半里に落下。 | 軽井沢追分附近等戸障子の落下挫折、ガラス破損等かなりあり。 (浅間山爆発史集) |
| 昭和10年(1935) 4月20日 5月 5日 22日 28日 | " | 16時21分大音響にて爆発、石樽山附近山火事、藤岡、富岡方面降灰活動活発にて噴煙本県側に流れて降灰量多し 5月 5日前橋にて89gr/m ³ 、5月22日69gr/m ³ 、28日坪当り1合5勺、11月 7日藤岡にて40gr/m ³ | 国有林に延焼。追分附近ガラス破損あり (浅間山爆発史集) 降灰により桑、野菜に被害。(浅間山爆発史集) |
| 昭和11年(1936) 3月～9月 | " | 9時33分噴火 | 噴出岩石のため3名の登山者中1名足を折り死亡 (浅間山爆発史集) |
| 昭和13年(1939) 3月～9月 | " | 3月25日の爆発以来頻繁に爆発し降灰多し。9月26日山火事おこる。 | 農作物に被害あり。 (浅間山爆発史集) |
| 昭和22年(1947) 8月14日 | " | 12時17分砲声音をたて爆発、山頂附近噴石落下し、また西側湯の平で山火事がおきる。 | 登山者11名落石で死亡、爆風で窓ガラスの破損あり (浅間山爆発史集) |
| 昭和25年(1950) 9月23日 | " | 14時37分大爆音と共に噴火。噴火噴煙は、6,000mの高さに上り3km以内に火山弾が落下した。 噴煙は東南東に流れ降灰は宇都宮、東京におよんだ。 県内では赤城山以南の各地に降灰し量が多かった。 | 軽井沢附近窓ガラスの破損多く壁の落ちたものあり 登山者 1名 死亡 6名 負傷 (浅間山爆発史集) (気 象 要 覧) |
| 昭和33年(1958) 11月10日 | " | 22時50分大爆発と共に大噴火。噴煙は、高度7,000mに達して東方に流れた。火山弾は3～4kmとび、風に流されたものは、東北東9kmの地点までとんだ。降灰は浅間山と沼田・藤田の線内であり、遠く太平洋まで続いた。 | 爆風によるガラスの破損被害は16kmの地点にまでおよび次の被害があった。 被害戸数 2,305戸 ガラス破損 28,154枚 壁の破損 50坪 戸障子の被害 2,509枚 (浅間山爆発史集) |
| 昭和34年(1959) 4月14日 | " | 20時30分大爆発 噴煙は高度7,000mに達し南東に流れた。火山弾は南側に多く、3.6kmに達した。降灰は東京・横浜にまで達した。 | 火山弾により山火事が発生し国有林61ヘクタールを焼失した。 (浅間山爆発史集) |
| 昭和36年(1961) 8月18日 | " | 14時42分中爆発 噴煙は高度7,000mに達して南東に流れ軽井沢附近も2cmの礫が降った。 | 登山者1名行方不明 火山礫、砂灰のため農作物に被害。 (浅間山爆発史集) |